

【可能性拡大と困難克服のマネジメント】シリーズ

組織経営が難しいと感じた時の取り組み法

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【働く層の“意識変化”の中で…】

働く側の“意識”が変わって、組織経営が急速に難しくなったという話が、最近至る所で聞かれるようになりました。

しかし、働く層の意識がどうであれ、組織を率いる側に“先行き”に対する強い確信と、それを組織内に浸透させる工夫があるなら、組織の結集力を保つことは、従来以上に難しいとは言えないとも思えて来ます。

【組織を引っ張る展望を捉えにくいと…】

ただ、そう捉えれば捉える程、昨今の経営の難しさは、働く層の意識だけではなく、事業の先行き展望が“捉えにくくなった”という現実にも起因していると思えて来るのです。

今“先行きへの確信”の復活が不可欠なのです。

【何らかの活動の“起点”を探す】

そうだとしても、従来のような“目標”設定的な方法では、もはや“先行き確信”に至るのは難しいでしょう。

今、何らかの形で“特別の工夫”や、それを越えた“発想の転換”が求められるのです。

【“やり残し”がキーワードとして浮上】

その“発想の転換”も、何か新しい視点や可能性を見出そうとするより、もっと現実的な視点が求められそうなのです。

その現実性とはたとえば、経営側も従業員側も、それぞれに過去に“やり残した”ことの中から“意味のある課題を見つけ出す”という捉え方です。やり残しへの取り組みを、今後の活動の起点に据えるということです。

【それは問題克服のエネルギーを持ち得るか？】

ただ、そうした発想法が“現状問題を克服する”程のエネルギーを持ち得るのでしょうか。そして、それは今日的な“従業員の意識変化”に、どのように働き掛け得るのでしょうか。

ある経営者の勉強会で“話題”になったユニークな視点が、1つのヒントになりそうです。

【マネジメント・レポートを差し上げます！】

そこで、その勉強会の話題の要点を捉えて整理したマネジメント・レポートをご用意しました。

ご希望の方には、レポートを差し上げていますので、ご一報ください。



会社は“従業員の働き”を通じて“稼ぐ”組織だとするのが、疑いの余地のない常識だったと言えるかも知れません。ところが、一部の会社で始まった“副業是認”が、この歴史的な常識に“新しい光”を投げかけていると主張する2人の経営者がおられます。

そして、そこから生まれる“組織経営発想”が、近未来に、効果的マネジメント発想の起点になり得ると言うのです。しかもそれは今日、難しくなった“社内の組織運営問題”克服のヒントにもなりそうなのです。

FAXお申込み欄

FAX : — —

<input type="checkbox"/> 今月のレポート希望	御社名 : _____	
<input type="checkbox"/> 送付先を紹介したい	お名前 : _____	お役職 : _____
<input type="checkbox"/> FAX中止希望	ご住所 : _____	
レポート : HMRP293	TEL : _____	

(お問い合わせ先)